

事 件	現 況
2. 京都京極の写真師矢野某による‘美人選挙’に当選した、祇園先斗町などの女性 149 人の写真帳が作れるとのこと。〔東京日日 2/5(3)〕	1. 宮中新年式の御模様と東京市中の元日風景〔郵便報知 1/3(2)〕 1. 新年の流行（和装・新年）——“黒紋付の羽織と仙台平の袴、娘子供は黄八丈の小袖多く書生小僧は荻紬の羽織多し、人毎に烟草吸わぬはなく大晦日の不景気を口にせぬ人はなし”。〔日本 1/3(2)〕 1. 壮士、仕込杖を廃す（副装品）——“無声館の壮士は常に仕込杖を携え居るを以て麹町警察署に於いては密行巡査を以て其の挙動を観察せしめ居りしが旧臘 27 日、同館の壮士が密行巡査に仕込杖を以て暴行せしを以て爾来は館員申し合わせ仕込杖を携帯せぬことに評議一決せしと云う”。〔日本 1/3(2)〕 1. 現今京都の行商人〔風俗画報 1月10日(No.37)〈口絵〉〕＊図 1. 汽車の湯たんぼ及び唾壺——“鉄道庁にては上中等客車室に備うる湯たんぼ及び唾壺の紛乱毀損すること昨今頻りなるにより自今濫りに之を移動するものは鉄道規則第 9 条に依りて処罰することと定め各停車場に於いても発着毎に之に注意する様夫々通知せり”。〔東京朝日 1/20(1)〕



現今京都行商人の図
神坂雪佳画、『風俗画報』No.37 1892(明25)年1月10日号

事 件	現 況
学校を一周施行することとする。接種を受ける人員は久松、坂本両警察署と協議して毎日 1,500 名以上と決まった。〔郵便報知 2/25(2)〕	1. 櫛筭及び根掛の新流行（整容）——“挿し櫛目下の大流行はお初形と政子形の 2 種なり 利休形牡丹形の如きはたまたま老婦の頭上にあうるを見るのみ又た鬢櫛は達磨形ももっとも流行せり”。〔郵便報知 1/21(2)〕 1. 女学校熱衰退——女学校熱衰え、生徒の数が日に日に減少し、多くの女学校は維持に苦勞していると。〔国民 1/22(2)〕 1. 種痘の状況——“旧臘より本年に掛けて天然痘流行の兆ありて全国中其最も盛んなる所は東京神奈川栃木の 1 府 2 県なり元来天然痘の起こるべき季節は 11、12、1、2、3 の 5 カ月にして本年等もこの季節に於いて起れり 又流行地に於ける患者の数を挙げんに内務省の最近の調査によれば東京府 870 人、内死亡 169 人なり 就中神田の如きは患者の最多数を占め同区内のみにて 290 人の患者あり……天然痘は 6 種流行病中にても其死亡人の多き 5 に位せるほどのものなれども是れには予防法もあり又夫々消毒法もありて何れも官の制裁あるものなるに年々流行せしむるは全く其等の手続きを充分せざるの致す所ならん 予防法とは種痘是れなり”。〔東京朝日 1/29(5)〕 2. 寒さが厳しく——2 月 17 日の最低温度はマイナス 4.3 度で去る 1 月 22 日とおなじ。このような低温は過去 10 年間にも 1885（明治 18）年 2 月 19 日のマイナス 5 度と、1889（明治 22）年 2 月 21 日のマイナス 5.3 度の 2 回のみ。〔大阪毎日 2/18(3)〕 2. 流行の平打簪（整容）——“平打簪は昔こそ流行したれ近年絶えて挿すものなかりしが昨今に至り大いに流行するに至れり 島田髷の横挿しなどには上品なものなり 代価は銀製にて 6、70 銭……”。〔郵便報知 2/20(2)〕 2. 流行の髪飾り（整容）——“護謨を以て珊瑚珠贗いに作りたるもの、柰目色合殆ど真物と違わねば中以下の婦人には根掛又は簪の玉に此れを用うる者多く……”。〔東京日日 2/24(3)〕 3. 洋装の雛人形（洋装）——今年の上方出来の雛人形の中に洋装の見事なものがあり、ちょっと喝采を得ている。〔読売 3/4(2)〕 3. 流行の蝙蝠傘（副装品）——“今年の流行物は鉄柄パテント絹張の外に繭中緞子張、アメ張、統の二重張り……”。〔東京日日 3/5(3)〕 3. 東京府民の糞尿代——東京 15 区と郡部とを合わせた約 117 万人の府民の排泄物は周辺農村に売却されて、その代金は年額約 47 万円となる。1 人につき約 40 銭。これと路傍便所の分とを合わせて約 50 万円が府の収入として水道改良費の一部に使用される。〔中外商業新報 3/6(1)〕 3. 能登地方の女性隔離（民俗）——“明治生命保険会社の医員某氏が能登地方を巡回したる時其の親族婚姻の最も甚だしき弊害を存する土地を見いだしたる由……同医員が滞在中最も珍しく感じたるは同地の婦女が男子に面接するを嫌ふ風習ありて医員に診察を乞うにも其の夫より患者の妻の容体を陳べ親しく診察を受けざるより某氏も頗る之に困じ夫れにてはとても診断は出来ずとて断りければ患者を論して漸くのことに親しく診察を受けしむる程なり 右等の有様は恰も支那朝鮮の風俗と異なることなしと云えり”。〔東京朝日 3/10(5)〕 4. 流行の染色（和装・春）——◎藤色、肌色、利休色、トキ色 ◎半襟から帯側まで大流行。〔国民 4/3(2)〕
学校を一周施行することとする。接種を受ける人員は久松、坂本両警察署と協議して毎日 1,500 名以上と決まった。〔郵便報知 2/25(2)〕	